



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

## 乳児期における社会的学習

誰からどのように学ぶのか

奥村優子

赤ちゃんはすごい学習能力を持って生まれてきます。生後1年で声や音を聞き分け、記憶力が発達し、言葉を理解し発話するようになります。こうした赤ちゃんの学習メカニズムを科学的に知りたいたいと思い、大学院から乳児の社会的学習をテーマとして研究を始め11年が経ちました。

本書は、発達心理学の視点から乳児の認知機能に注目し、その学習メカニズムを科学的に明らかにすることを目的としました。本書では、乳児のロボットからの学習や、他者の視線や言語（方言）を

手がかりとした学習といった筆者の実験を詳述しています。そして、実験で明らかにされた赤ちゃんのすごい能力について、乳児は誰から、どのように学習しているのかといった学習メカニズムの発達について議論を深めました。

近年、乳幼児とロボットとのインタラクションに関する研究は、教育支援やセラピーなどの側面で注目を集めています。本書の知見が発達心理学のみならず、認知科学、ロボティクス、教育学などの幅広い分野において今後の理論の展開や実践に繋がれば幸いです。



著 奥村優子  
発行 東京大学出版会  
A5判／216頁  
定価 本体4,500円＋税  
発行年月 2020年2月

おくむら ゆうこ  
NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究主任。専門は発達心理学。著書はほかに『発達科学の最前線』（分担執筆、ミネルヴァ書房）、『ベシク発達心理学』（分担執筆、東京大学出版会）など。

### 研究テーマ別

## 注意の生涯発達心理学

坂田陽子

もっと初学者から専門家まで使えるわかりやすい注意研究の本がほしい、注意研究を俯瞰的に見た本がほしい、成人を対象とした注意メカニズムの概説だけでなく、注意機能がどのように発達の変化を遂げるのか知りたい……そういったリクエストに応え、5年の歳月をかけ、全部網羅した本を作りました。注意研究をテーマ別に分けて初学者にもわかりやすく解説し、それぞれについて乳幼児から高齢者までの研究を紹介するという、横断的かつ縦断的な一冊です。これさえあれば、現在の注意

研究の大枠がわかる……。いや、余計「注意とは何ぞや」と思うかもしれません。そもそも国語辞典の「注意」を引くと、「気を付けること、警戒すること」など、自ら意図的に行う行動が書かれています。でも研究では「無視すること、抑制すること」など意識せずとも行っている行動も取り扱います。そんな行動、どうやって測定するの？ 赤ちゃんや高齢者は成人と同じような注意能力を持っているの？——注意研究の沼にハマらないように、注意してお読みください。



編 坂田陽子・日比優子・河西哲子  
発行 ナカニシヤ出版  
A5判／197頁  
定価 本体3,000円＋税  
発行年月日 2020年3月

さかた ようこ  
愛知淑徳大学心理学部教授。専門は認知発達心理学。著書等はほかに『[DVD] 増補版 赤ちゃんの生後1年間の驚くべき能力』（共著、ナカニシヤ出版）、『実験で学ぶ発達心理学』（共編著、ナカニシヤ出版）、『認知のエイジング：入門編』（監訳、北大路書房）など。

